

研究開発成果 実装支援プログラム  
平成23年度 報告書

実装活動の名称

「家庭内児童虐待防止にむけたヒューマンサービスの社会実装」

採択年度	平成21年
実装機関名	立命館大学
実装責任者	中村 正

## 1. 概要

当初の計画どおり家族再統合実践を展開した。第1は虐待親向けのプログラム実施である。原則として月2回のグループワークと月2回の個人カウンセリングもしくは夫婦カウンセリング、そして参加している家族を対象にしたファミリーグループ・カンファレンスを適宜開催した。グループワークは月に2回を基本とした。2011年4月から2012年2月までに計22回、カウンセリングは15回のセッションを実施した。ファミリーグループ・カンファレンスは家族再統合がすすむ一家族に対して合計3回実施した。

第2は、家族再統合実践についての児童相談所・児童福祉施設など子どもの福祉現場で働く職員の専門性を高める取り組みを重点的に実施した。これは当初計画の重点目標として掲げていた課題である。①「児童相談所とその近接領域における家族療法・家族援助研修会」（2012年2月4-5日、広島県安芸グランドホテル、150名の児童相談所の心理職と福祉職等の参加があった）で研修を実施した。家族療法の技法とその考え方についてシンポジウムでこの実装の取り組みと理論を伝えた。とくに暴力のある家族システムに介入する際の重要ポイントを伝えた。②1日もしくは2日連続の支援者支援研修を5回実施した。これらは複雑化する児童福祉現場に対応できる人材の育成の課題に応えるものであり、職員のスキルを向上するとともに、バーンアウト防止に資することができた。

第3は事例検討会の開催である。実装プログラムをとおして関与する家族の再統合の諸過程の詳細について大阪府と大阪市の児童相談所の虐待ケースに対応する職員に公開して検討会を開催した。一回目は大阪市こども相談センター（大阪市）、2回目は大阪府中央子ども家庭センター（寝屋川市）でそれぞれ2事例、合計4事例をとりあげ、担当者がケースワークの過程を紹介し中村が解説するという形態ですすめた。これは再統合の実際の理解についてとともに男親塾への参加を促すことにおいても効果的であった。

第4は男親塾への参加層が対象地域を拡大したことである。事例としても傷害や傷害致死事例、性虐待親事例や多問題家族事例（妻の精神障害や妻のギャンブル依存が重なる事例）が増え、再統合に向けたケースワークの質の向上が求められることとなった。課題としては難度が高く、挑戦的な課題を扱うこととなった。

さらに、英国の類似の取り組みの調査と検討を行い、里親制度の改革への厚生労働省の提案がなされたことともかわり、複数の団体との連携が進みつつある。これも次年度の事業に活かすべき点と位置づける。

## 2. 実装活動の具体的内容

家族再統合実践を展開した。第1は虐待親向けのプログラム実施である。原則として月2回のグループワークと月2回の個人カウンセリングもしくは夫婦カウンセリング、そして参加している家族を対象にしたファミリーグループ・カンファレンスを事例進行の必要にあわせて開催した。虐待親向けのグループワークは月に2回を基本とした（隔週土曜の午後1時30分から3時30分までを大阪市男女共同参画センターであるクレオ中央で実施した）。2011年4月から2012年2月までに計22回、カウンセリングは15回のセッションを実施した。ファミリーグループ・カンファレンスは家族再統合がすすむ一家族に対して合計3回実施した。

第2は、家族再統合実践についての児童相談所・児童福祉施設など子どもの福祉現場で働く職員の専門性を高める取り組みを実施した。計画の重点目標として掲げていた課題でもある。具体的には以下のとおりである。①「児童相談所とその近接領域における家族療法・家族援助研修会」（2012年2月4-5日、広島県安芸グランドホテル、150名の児童相談所の心理職と福祉職等の参加があった）で研修を実施した。家族療法の技法とその考え方についてシンポジウムでこの実装の取り組みと理論を伝えた。とくに暴力のある家族システムに介入する際の重要ポイントを伝えた。②1日もしくは2日連続の支援者支援研修を5回実施した。これらは複雑化する児童福祉現場に対応できる人材の育成の課題に応えるものであり、職員のスキルを向上するとともに、バーンアウト防止に資することができた。

第3は事例検討会を開催した。実装プログラムをとおして関与する家族の再統合の諸過程の詳細について大阪府と大阪市の児童相談所の虐待ケースに対応する職員に公開して検討会を開催した。1回目は大阪市こども相談センター（大阪市）、2回目は大阪府中央子ども家庭センター（寝屋川市）でそれぞれ2事例、合計4事例をとりあげ、担当者がケースワークの過程を紹介し中村が解説するという形態ですすめた。これは再統合の実際理解についてとともに男親塾への参加を促すことにおいても効果的であった。

第4の具体化は男親塾への参加層が対象地域を広げたことである。事例としても傷害や傷害致死事例、性虐待親事例や多問題家族事例（妻の精神障害や妻のギャンブル依存が重なる事例）が増え、再統合に向けたケースワークの質の向上が求められることとなった。課題としては難度が高く、挑戦的な課題を扱うこととなった。さらに、英国の類似の取り組みの調査と検討を行い、里親制度の改革への厚生労働省の提案がなされたことともかかわり、複数の団体との連携が進みつつある。これも次年度の事業に活かすべき点と位置づける。

第5に、人材育成について、継続して支援者支援研修を5回開催した。内容としては①「虐待とアタッチメント」研修会を実施し、虐待的養育が対人関係に及ぼす影響を学んだ。（2011年9月24日、クレオ大阪西で実施し、87名の参加があった）②「ABA（応用行動分析）」研修会を実施し、子どもの行動をどのように分析し、理解するかを学んだ。（2011年11月5-6日、大阪市阿倍野市民学習センターで実施し、のべ71名の参加があった）③「家族理解ワークショップ」を実施し、家族を見立てるためのジェノグラム（家族図）の基礎を学ぶとともに、児童相談の過去から現在にいたる変化を学んだ。（2012年1月15-16日に立命館大学大阪キャンパスで実施し、のべ101名の参加があった）④「スター・ペアレンティング」研修会を実施し、保護者指導のための親学習プログラムを学んだ。（2012年2月18-19日に大阪府立ドーンセンターで実施し、のべ66名の参加があった。）⑤「こどもの現場の変え方」研修会を実施し、児童福祉施設において子どもに安全な環境を提供し、子どもの問題行動を減少させるために効果のあった取り組みについて学んだ。（2012年3月3日、大阪市立子育ていろいろ相談センターで実施し、41名の参加があった。）

### 3. 理解普及のための活動とその成果

#### (1) 展示会への出展等

特になし

(2) 研修会、講習会、観察会、懇談会、シンポジウム等

年月日	名称	場所	概要	ステークホルダー	社会的インパクト
2011/4/2～	男親塾	クレオ大阪中央	年24回開催、虐待父親向けのプログラムの一部で月2回のグループワークを開催。のべ111人参加（3月3日現在 ラスト1回の参加者数追加必要）	児童相談所	
2011/9/24	支援者支援研修「虐待とアタッチメント（愛着）」	クレオ大阪西	親のアタッチメントの特徴が子どもの発達にどのような影響を与えるか、アタッチメント理論から見た虐待養育の問題性について学んだ。モデルケースを用いて、アタッチメントの見立て方を学んだ。	児童相談所、乳児院、児童養護施設、市町村職員、保健師など	参加人員87名、事前申し込みが定員を超える。
2011/11/5	支援者支援研修 ABA（応用行動分析）ワークショップ	大阪市立阿倍野市民学習センター	応用行動分析の観点から、子どもの行動を分析し、より効果的な介入方法について学んだ。	児童相談所、児童福祉施設職員など	参加人数、2日間でのべ71名の参加があった。
2012/1/14～1/15	支援者支援研修「家族理解ワークショップー児童相談の現在・過去・未来ー」	立命館大学大阪キャンパス	1日目は講師の経験から児童相談所の変遷を振り返り、今後の児童相談の未来について検討した。2日目は家族を見立てる大切さとジェノグラムの基礎を学び、参加者同士でジェノグラムの聞き取り実習を行った。	児童相談所、児童福祉施設職員など	参加人数、2日間でのべ101名の参加があった。
2012/2/18～2/19	支援者支援研修「スター☆ペアレンディング講座」	ドーンセンター大会議室	親が自分を大切にしながら、たたかず、甘やかさず、楽しみながら子育てをする方法で、親子や子ども同士で起こる問題を解決する親学習プログラムを支援者を	児童相談所、市町村子育て支援担当、児童福祉施設	参加人数、2日間でのべ66名の参加があ

			対象として実施した。	など	った。
2012/3/05	支援者支援研修「子どもの現場の変わり方！」	子育ていろいろ相談センター研修室	2011年8月の視察先の施設の実践を参考に、子どもの支援機関の支援を向上するために活用できる方法について学んだ。	児童福祉施設、児童相談所など	参加人数41名の参加があった。

### (3) 新聞報道、TV放映、ラジオ報道、雑誌掲載等

特になし

### (4) 論文発表（国内誌9件、国際誌0件）

徳永祥子「〈海外視察報告〉英国の治療的養育と地域非行対策について—児童自立支援施設の将来展望を添えて」『非行問題』213号、全国児童自立支援施設協議会、2012年3月  
 久保樹里「目の前にいる子どものそだちを保障する地道な支援」『そだちと臨床』第10号、明石書店、2011年4月  
 中村正監訳『虐待的パーソナリティ』（ドナルド・ダットン著）、2011年8月、明石書店  
 中村正「社会臨床の視界（5）影をとらえる—感情について」、2011年6月、『対人援助学マガジン（デジタル）』第1巻5号、14-26、日本対人援助学会  
 中村正「社会臨床の視界（6）臨床の知の植民地化について—どんな言葉と文脈で対人援助を考えるか」、2011年9月、『対人援助学マガジン（デジタル）』第1巻6号、14-25頁、日本対人援助学会  
 中村正「『加害者治療』の観点から—暴力加害者への臨床論のために」、2011年10月、『法と心理』第11巻1号、14-20頁、法と心理学会  
 中村正「親密な関係性における男性の暴力への対応—加害者リハビリテーションの実践から」、2011年10月、『月刊地域保健』第42巻10号、42-46頁  
 中村正「社会臨床の視界（7）—男親と父親の『あいだ』にある父性の涵養」、2012年1月、『対人援助学マガジン（デジタル）』第1巻7号、14-26頁、日本対人援助学会  
 中村正「社会臨床の視界（8）—家族をシステムとしてエコロジカルにみること」、2012年3月、『対人援助学マガジン（デジタル）』第1巻8号、15-24頁、日本対人援助学会

\*以上はすべて発信できます。さらに、上記のうち、『対人援助学マガジン』は以下のサイトを紹介して自由にダウンロードできることを発信してください。

『対人援助学マガジン』のサイト <http://www.humanservices.jp/magazine/index.html>

### (5) WEBサイトによる情報公開

男親塾の情報・支援者支援研修の情報を載せた「男親塾」HPを作成した。

<http://otokooya.com/schedule>

## (6) 口頭発表（国際学会発表及び主要な国内学会発表）

①招待講演 （国内会議\_\_\_\_\_件、国際会議\_\_\_\_\_件）

②口頭講演 （国内会議\_\_\_\_\_2件、国際会議\_\_\_\_\_件）

③ポスター発表 （国内会議\_\_\_\_\_件、国際会議\_\_\_\_\_件）

久保樹里「親子支援の強化を家族えん会議（日本型ファミリーグループ・カンファレンス）の導入事例から検討する」、日本子ども虐待防止大会第17回いばらぎ大会、2011年12月2日

中村正「男性と親密な関係性－脱暴力への臨床をもとにして－」、日本社会病理学会第27回大会、テーマセッションⅡ「親密性を問う－虐待論の現在」、2011年10月2日、大正大学

## (7) 特許出願

特になし

## (8) その他特記事項

厚生労働省は虐待対応にむけた児童養護の仕組みの方針転換を模索している。社会的養護のなかでも里親の充実と拡大である。これも親支援の一貫と考えることができ、この実装支援プログラムはさらに里親支援へと応用することができると想定している。その際に、英国はこの施策が充実しており、とりわけ英国で評価の高い里親支援グループのThe Core Assets Group (<http://www.coreassets.com/>) とコンタクトをとり、今後の家族再統合支援にむけた社会技術的な実装に向けた里親支援方策の確立に着手した。2012年3月30日に英国のバーミンガム市にある本部を訪問し、中村がカンファレンスのなかで本プロジェクトの愛用をレクチャーし、今後の連携について協議した。その他にもわが国の家族再統合支援のスキームが変化しつつあるので、社会的包摂と統合の政策をもつ国々との実装という点での連携を強化することとしたい。

同じことは国内でもいえる。家族再統合に関して先進的な試みを実施している児童福祉施設との連携を強めた。2012年8月16日に情緒障害児短期治療施設「あゆみの丘（大阪府貝塚市）」と協議をした。あゆみの丘は虐待の後遺症や発達障害など治療が必要な子どもたちが生活する施設である。開所後まもなく、入所児童が荒れて、対応困難な状況に陥った施設を、施設の第一のミッションは、子どもに安心・安全な環境を提供することであると、親学習プログラム「コモンセンス・ペアレンティング」、子どもを加害者にしないプログラム「セカンド・ステップ」、「効果的な会議手法」、「学力向上プログラム」を導入し、立て直した経過を聞き取った。また、保護者にもコモンセンス・ペアレンティングを実施し、外泊時の親子間の問題を分析し、家族再統合を進めていく手法について聞き取った。その成果は2012年3月3日の支援者支援研修へとつなげた。